

人権教育啓発DVDリスト

令和 7 年度購入 DVD

(保管：生涯学習 スポーツ 課)

「あなたのいる庭」 社会におけるこどもの人権 ～こどもが安心して暮らせる社会の実現をめざして～

(35 分) (R6：企画・兵庫県・(公財) 兵庫県人権啓発協会：企画協力・兵庫県教育委員会
：制作・東映株式会社)

社会には、虐待や貧困、死別など様々な理由で保護者と暮らせず、児童養護施設など社会的養護のもとで暮らしているこどもたち、そして社会的擁護下から自立したが、家族からのサポートを得られずに生きる人たち（ケアリーバー）がいます。社会的養護の現状や実態を知る人は少なく、世間からの無理解と偏見にさらされ、居場所を見いだせず、進学や就職など生きる上で様々な困難に直面している現状があります。次代の社会を担うこどもたちが自分らしく幸せに成長でき、暮らせるように、社会全体で支えていかなければなりません。「こどもの人権」について改めて考え、誰もが一人の人間として尊重される社会の実現をめざすことを目的とした人権啓発ドラマです。

平成 21 年度～令和 6 年度購入 DVD

(保管：生涯学習 スポーツ 課)

「大切なひと」 ネット社会における部落差別と人権 ～誰もが一人の人間として尊重される社会の実現を目指して～

(34 分) (R5：企画・兵庫県・(公財) 兵庫県人権啓発協会：企画協力・兵庫県教育委員会
：制作・東映株式会社)

現代社会におけるインターネットは利便性が高く、SNS や動画投稿サイトなどを通して自由に意見表明することができるのが特徴です。

一方で、インターネット上では他者からの評価が自身の評価と誤認し、部落差別・外国人差別といった偏見や差別を助長するような情報を発信する行為も見られます。ときに投稿者自身も第三者から誹謗中傷を受けることがあり、現在深刻な人権問題となっています。

インターネット上の一部の情報が、誤った認識や差別意識を助長すること、表現

の自由を逸脱した許されない行為であると気づく大切さ、差別されてる当事者が訴え続けるという負担を強いる社会構造の実態について理解するとともに、差別のない社会、誰もが一人の人間として尊重される社会の実現を目指すことを目的とした人権啓発ドラマです。

破戒

(119 分) (R4：企画：製作・全国水平社創立 100 周年記念映画制作委員会)
：制作・東映株式会社

原作は島崎藤村。

丑松は、自分が被差別部落出身ということを隠して、地元を離れ、小学校の教員として奉職する。彼は、その出自を隠し通すよう、父からの強い戒めを受けていた。彼は生徒に慕われる良い教師であったが、出自を隠していることに悩み、差別の現状を目の当たりにして心を乱しつつも下宿先の士族出身の女性との恋に心を焦がしていた。同僚教師の支えはあったが、学校では丑松の出自についての疑念も抱かれ始める。苦しみのなか丑松は、被差別部落出身の思想家・猪子蓮太郎に傾倒していく。

「なぜ自分の故郷を語れない。なぜ好きな人に気持ちを伝えることができない。」と自らの出自に苦悩し、最後にはある決断をする主人公・丑松の物語です。

夕焼け

ケアラー～だれもが人権尊重される社会を～

(35 分) (R 3：企画・兵庫県・(公財) 兵庫県人権啓発協会：制作・東映株式会社)

相手が家族や親しい人であっても、毎日誰かの介護や世話をすることは、身体的、精神的、さらに経済的にも大きな負担がかかります。特にヤングケアラーは、学校に通い、教育を受け、友人と交流を通して成長する重要な時期であるにもかかわらず、その状況が周囲から見過ごされることが多いという問題があります。

主人公・瑠依は、幼い弟の世話や家事に追われる生活にしんどさを感じつつも、「家族のことは家族でするのが当たり前」という思い込みから、気持ちを押し殺して生活しているヤングケアラーです。しかし、元ケアラーの灯との交流によって、自分の状況や本当の気持ちについて見つめ直し、将来に向き合うための一歩を踏み出します。この作品では、お互いを気にかけて、人と人がつながっていくことが、ケアラーと家族が抱える問題解決の糸口になる様子を描きます。

ケアは他人事ではありません。だれもがケアする側にもケアされる側にもなります。年齢属性を問わず、共に助け合える『だれもが人権尊重される社会』の実現をめざすことを目的とした、人権啓発ドラマです。

私たち 一人ひとりができること ～当事者意識をもって考えるコロナ差別～

(26分) (R3：企画：制作・東映株式会社教育映像部)

新型コロナウイルス感染症が拡大する中、感染への不安から、感染した方への誹謗・中傷や、特定の職業につく人々への不当な差別など、いわゆる「コロナ差別」が問題になったおり、各自治体でコロナ差別解消に向けた様々な取り組みがおこなわれています。本作品は、「コロナ差別」の特徴と、差別や偏見がなぜ生まれるのか、そしてどのように向き合っていけば良いのかを学べる、ドラマ形式の人権啓発教材です。

『新型コロナウイルス感染症への対応が長期化する中、理人、智恵、杏里の三人は、身近に感染症が出ていないこともあって危機意識も徐々に薄れていき、どこか他人事のように考えていた。ところがある日、杏里の同級生の三好一家が新型コロナウイルスに感染して・・・。』

いまそこにいる人と、しっかり出合うー同和問題ー

(24分) (R2：企画：製作・東映株式会社教育映像部)

介護付き老人ホームで働く先輩の佐藤と新人の臼井。佐藤をよく信頼している入居者の木村からコールがあり、介助を手際よく行う。木村が佐藤の出身を聞き、佐藤が木村が知っているある地名を答えると、態度を急変させる。

佐藤は臼井に同和問題について尋ねる。佐藤は、自分の実家が同和地区にあったことを告げる。臼井は帰宅して、同和問題について調べる。

翌日、木村は昨日の事は覚えていないようで、佐藤に再び出身を聞く。佐藤は、実家ではなく現在住んでいる場所を教える。答えが違ったので、木村は昨日のような態度をとることはなかった。

その夜、佐藤は臼井を特別な居場所に誘う。そこは、今回の理不尽な事にも佐藤が冷静でいることが出来る、親友と恩師がいる場所だった。

シェアしてみたらわかったこと

(46分) (R2：企画・東京都教育委員会：製作・東映株式会社教育映像部)

主人公・未来が、上京して期待を胸に入居したシェアハウス。そこに暮らしていたのは、個性豊かな住人たち。この住人たちとの交流の中で、未来が初めて気づいたことを語っていく。

外国人に関する人権。性自認や性的指向に関する人権。外から見えにくい障害のある人の人権。災害時の人権。の4つの問題について、物語が進み、それぞれの場面で、専門家からの解説が行われる形式をとっている。

「サマーラット」～あなたの言葉で～

(36分) (H30：企画・兵庫県人権啓発協会：協力・兵庫県教育委員会
：制作・東映株式会社)

この作品の主人公・珠美は、新しく職場に来たフィリピン人のミランダに対し、様々な違いを「壁」と捉え、面倒な存在だと感じてしまいます。しかし、自分とは異なる文化や考え方を持つミランダとの対立や交流を通して、珠美は新たな視点に気づかされ、「違い」は様々な問題解決の糸口になることも学んでいきます。珠美とミランダの姿を通して外国人は「受け入れてあげる存在」でも「労働力」でもなく、助け合えることが出来る対等な仲間であること、SNSを傷つけるための道具としてではなく、人の心と心をつないでいくために利用する様子を描きます。

「違い」は壁ではなく、自分自身を成長させ、地域を豊かにする源です。異なる文化の人たちを、共に未来をつくる新しい存在として尊重し、互いに高め合っていく。そんな多文化社会の実現をめざす人権啓発ドラマです。

部落の心を伝えたい ありのまま生きる～坂田愛梨・瑠梨～

(24分) (H29：企画・風楽創作事務所：制作・フルーク映像株式会社)

愛梨(25)・瑠梨(24)、7年ぶり2度目の登場。母から受け継いだ「ありのままに生きる覚悟」。就職・結婚・出産を経た今、伝えるべきことは?仲間、つながり・・・部落問題をはじめとする人権問題を考えることが「生きる力」を育んだ。

「寝た子を起こすな」で始まり「寝た子を起こす」で終わる部落問題。それを間近に見聞きしてきた姉妹は、「寝た子を起こす」活動が無理せず軽やかに積み上げる。

イマジネーション i m a g i n a t i o n

想う つながる 一歩ふみだす

(34 分) (H26：企画・東京都教育委員会：制作・東映株式会社)

舞台は小さなラジオ局

様々な人が番組を聞きながら、心を通わせ明日へとつながる、一歩を見つけていく。

あなたは imagination できてますか？

- ・ 子供の人権 - いじめ問題 - いじめをなくすのはアナタ
- ・ 同和問題「関わらないのが一番」それ本当？
- ・ 障害者の人権 - 発達障害 - 見えにくいから知ってほしい、発達障害のこと

そんなの気にしない - 同和問題 -

(17 分) (H28：企画：制作・東映株式会社教育映像部)

この作品は、二人の友だち同士が主人公で、タイトルの「そんなの気にしない」は、親友に自分が同和地区出身だということを告白したときに返ってきた言葉。告白したほうは、相手にもっと知って欲しかった。告白されたほうは相手が、そのままの相手で何も変わらないことを伝えたかった。しかし、その一言がきっかけで二人はすれ違っていく。

外国人と人権 ～違いを認め、共に生きる～

(33 分) (H28：企画・法務省人権擁護局・人権教育啓発推進センター
：制作・東映株式会社)

外国人に関する人権問題をドラマや解説で明らかにし、多様性を認め、人が人を大切にする人権尊重の社会をつくりあげるために何ができるかを考え、外国人に対する偏見や差別をなくし皆が住みよい社会を築くために私たちに問われていることとは何かを学ぶ。

わたしたちが伝えたい、大切なこと

ーアニメで見る全国中学生人権作文コンテスト入賞作品ー

(31 分) (H28：企画・法務省人権擁護局・人権教育啓発推進センター
：制作・毎日映画社)

全国中学生人権作文コンテスト入賞作品に基づき作成。日常生活の中での「人権」について理解を深めていった気付きのプロセスを描いている。

インターネットと人権

ー加害者にも被害者にもならないためにー

(30 分) (H28：企画・法務省人権擁護局・人権教育啓発推進センター
：制作・東映株式会社)

インターネットの急速な普及に伴い、中高生がインターネット上で深刻な人権侵害を受けることが増加している。この作品は2つの事例ドラマをもとに中高生や保護者、教職員を対象にインターネット利用上の危険性や安全な利用法についてわかりやすく簡潔にまとめられている。

あなたがあなたらしく生きるために 性的マイノリティと人権

(30 分) (H26：企画・法務省人権擁護局・人権教育啓発推進センター
：制作・東映株式会社)

性・セクシャルはとても多様です。しかし、それをしっかり理解している人はごくわずかでしょう。この作品は、「トランスジェンダーの中学生」「同性愛の会社員」の2本のドラマをもとに性的マイノリティについて人権の視点で理解を深めるのがねらいです。

人権アーカイブ・シリーズ

同和問題 ～過去からの証言、未来への提言～人権教育・啓発担当者向け

(61 分) (H26：企画・法務省人権擁護局・人権教育啓発推進センター
：制作・東映株式会社)

我が国固有の人権問題である同和問題に焦点を当て、歴史的経過、当時の社会情勢、問題の本質等について関係者の証言や解説等を中心にわかりやすく簡潔にまとめられている。

未来を拓く5つに扉

～全国中学生人権作文コンテスト入賞作品朗読集～

(46 分) (H26：企画・法務省人権擁護局・人権教育啓発推進センター：制作・桜映画社)

全国中学生人権作文コンテストでは、次代を担う中学生が、身の周りで起きたいいろいろな出来事や自分の体験などから、人権について考えています。このビデオでは、入賞作品の中から5編の作文を朗読して、アニメーションやイラストで紹介します。

中学生が作文の中でつぶやいている言葉に、あなたも耳を傾けてみてください。それが、きっと新しい明日への一歩につながっていくでしょう。

わっかカフェへようこそ

(35 分) (H27：企画・東京都教育委員会：制作・東映株式会社)

この作品では、インターネットによる人権侵害、高齢者の人権、外国人の人権を取り上げている。わっかの「わ」にはいろんな意味がある。調和の和、つながることも輪、めぐることも環、そして、はなしをする話。

町の路地にたたずむこの小さなわっかカフェには、いろんな人が訪れ、駿と桜が出迎える。

あなたに伝えたいこと

(36 分) (H26：企画・兵庫県・兵庫県人権啓発協会：企画協力・兵庫県教育委員会：制作・東映株式会社)

この作品は「インターネット時代における同和問題」をテーマとしている。

同和問題を正面から取り上げ、この問題が決して他人事ではないこと、正しく知ることが同和問題をはじめとする人権問題の解決につながることを描いている。また、ネット上の情報だけでなく、実際に人と触れ合う中でお互いを正しく知り合うことが、同和問題やすべての差別をなくしていくために重要であることを伝えている。

秋桜の咲く日

(34 分) (H25：企画・北九州市、北九州市教育委員会、北九州市人権問題啓発推進協議会：制作・東映株式会社)

本当にすべての人の人権が尊重される社会とは、違いを理解し、認め合うことはもちろん、それぞれの違いを活かすことのできる社会だといえる。

この作品は「目に見えにくい違い」の一つとして発達障害をとりあげ、発達障害のある人の生きづらさや痛みを真摯に伝えるとともに、「違い」が生み出すプラスのエ

ネルギーを美しく群生するコスモスの花々と重ね、「ともに生きることの喜び」を伝えるために制作された。

ほんとの空

(36 分) (H24：企画・兵庫県、兵庫県人権啓発協会：制作・東映株式会社)

高齢者や外国人に対する排除、不利益な扱い、同和問題や原発事故に伴う風評被害の問題、これら多くの人権問題に共通する根っこの部分は、私たちの誤った考え方や思い込み、偏見という「意識」です。

この作品は誤解や偏見に気づき、人と深く向き合うこと、他者の気持ちを我がこととして思うこと、すべての人権問題を自分に関わることとして捉え、日常の行動につなげてもらうために制作されました。

桃香の自由帳

(36 分) (H23：企画・兵庫県、兵庫県人権啓発協会：制作・東映株式会社)

核家族化や都市化が進む中、人々の地域などへの意識が大きく変わり、互いにふれあい、支え合うことが少なくなっています。そのため、同じ地域に暮らしていても、名前さえ知らなかったり、相手のことを誤解して排除したりするなど、私たちは気づかないうちに「人とのつながり」を自ら断ってしまうことがあります。

このドラマは、劇的な事件は描かず、どの地域でも起こりうる出来事に光を当てています。日常の何気ない言動を振り返ることで、現代を生きる私たちが見失いつつある、人と人が寄り添い共に生きる温かな世界とは何かについて語りかけます。

武州鼻緒騒動～差別に立ち向かった人々～

(27 分) (H24：企画：制作・財団法人埼玉人権同和センター)

天保 14 年(1843 年)江戸の身分制度の中で起こった武州鼻緒騒動。鼻緒の売買をめぐる些細なケンカがやがて幕府を巻き込む大騒動へと発展していった。幕府は何を恐れ、長吏たちは何故命をかけてまで闘ったのか。差別への憤りに立ち上がったその精神は、後の部落解放運動に脈々と受け継がれてきた。

私の中の差別意識―部落差別問題から考える―

(24 分) (H22：企画：製作・東映株式会社教育映像部)

部落差別問題を通し、人の中に巣食う差別意識への気づきを促していきます。あからさまな部落差別は影を潜めましたが、まだまだ結婚差別や就職差別や就職差別などは残っているのが現状です。

この作品では、ドキュメンタリーを通し、差別された人々の心の痛みを伝えつつ、どうすれば差別がなくなるのかを考えるきっかけを提供します。そして、自らの差別意識に気づき、正しい知識や判断力を持つことの大切さを伝えます。

アニメ「めぐみ」

(25 分) (H20：企画：制作・政府拉致問題対策本部) (無料配布)

この作品は、北朝鮮による日本人拉致問題の啓発を目的に制作されました。昭和52年、当時中学1年生だった横田めぐみさんが、学校からの帰宅途中に北朝鮮当局により拉致された事件を題材に、残された家族の苦悩や、懸命な救出活動の様を描いたドキュメンタリー・アニメです。

日常の人権Ⅰ

(23 分) (H21：企画：製作・東映株式会社教育映像部)

日常生活の中に潜む様々な人権問題取り上げている。ドラマで人々の心にある偏見を、そして、ドキュメンタリーで差別や偏見などで苦しむ人々の心の痛みを伝えている。人権について様々な角度から考えることができる作品。

日常の人権Ⅰ～気づきから行動へ～

【女性の人権】自分の無自覚な態度や言葉が、妻や会社の女性たちを傷つけていることに気づいていない会社員の姿。他に【子どもの人権】と【高齢者の人権】

日常の人権Ⅱ

(23 分) (H21：企画：製作・東映株式会社教育映像部)

日常生活の中に潜む様々な人権問題取り上げている。ドラマで人々の心にある偏見を、そして、ドキュメンタリーで差別や偏見などで苦しむ人々の心の痛みを伝えている。人権について様々な角度から考えることができる作品。

日常の人権Ⅱ～気づきから行動へ～

【外国人の人権】日本に住む外国人たちが、この国で孤立感や差別意識など日頃

の体験を語る。他に、【障がい者の人権】と【部落差別】と、最近増えているといわれている【インターネットでの人権侵害】

ひとみ輝くとき

(35 分 (H21 : 企画・福岡県(財)福岡県人権啓発情報センター)
: 製作・共和教育映画社)

郊外のとある中学校。毎年恒例のクラス対抗駅伝に向けて、生徒たちは昼休みに練習をしている。その風景を写真に収める、写真部員の笠原俊介。しかし練習の場に、選手である中井拓也の姿はない。教室から一向に出ようとしない拓也の携帯電話には、ひっきりなしにメールが届く。それは拓也への誹謗中傷や、現金を要求するメールで拓也は頭を抱えている。

本作品は、子どもの世界で起きているいじめや虐待の問題を大人が自分のこととして考え、子どもを家庭・学校・地域社会が協力し合って支えていく社会の形成ができることを願い製作されている。

本作品を子どもたちが鑑賞して「いじめの構造」を知ったとき、自分はどの位置にいるのかを判断し、皆で考え話し合いのできる作品となっている。